

2023年6月26日 IGES公開ウェビナー

温暖化政策の立案過程での 市民の関わりの可能性 ～市民会議と自分ごと化会議の比較～

欧州の気候市民会議からの学び～気候市民会議の効果的な地方展開をめざして～

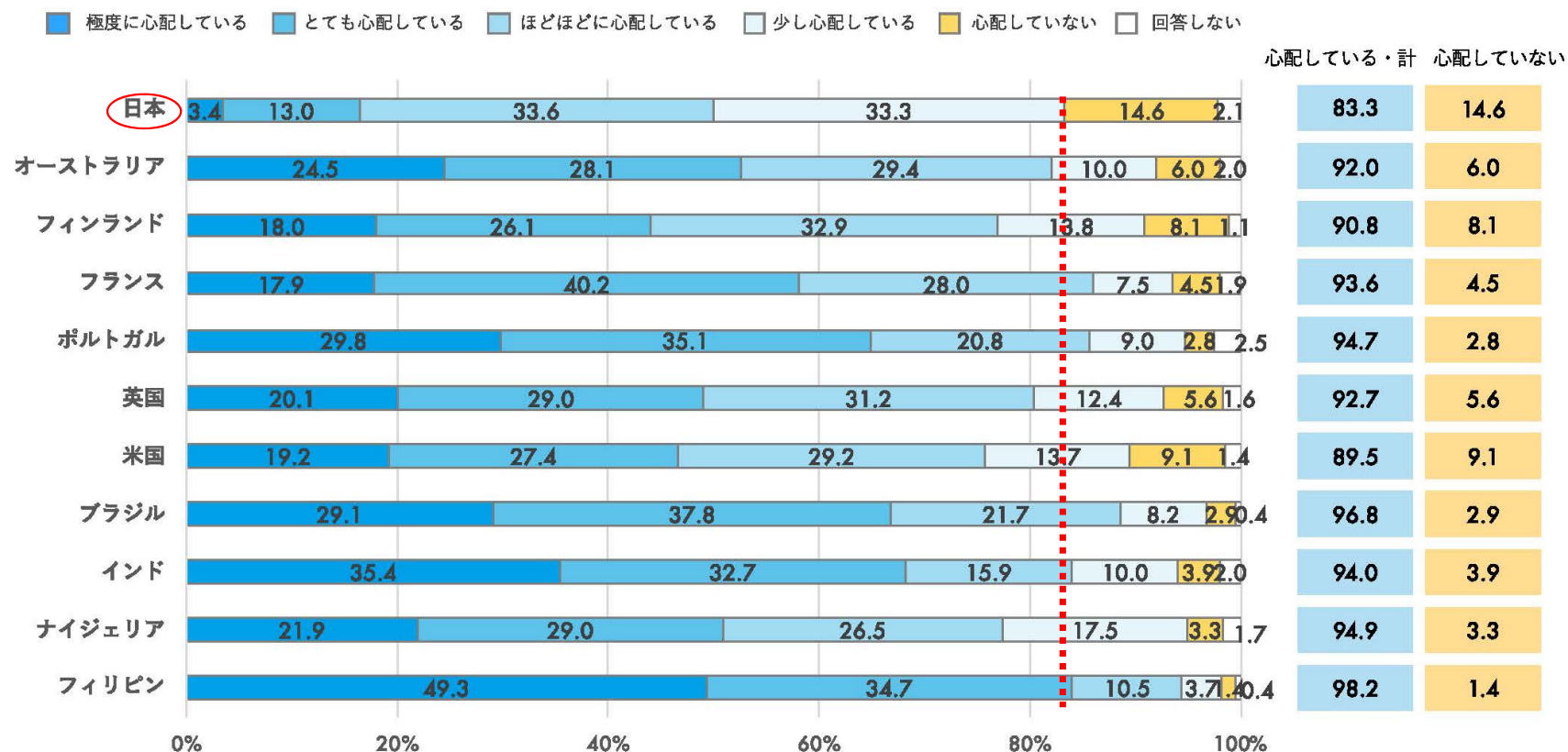
IGES 都市タスクフォース プログラムマネージャー
浅川 賢司

背景となる問題意識

1. 温暖化政策への市民参加は不可欠。しかし、気候市民会議は**日本に適した市民参加方法**なのだろうか？
2. この市民参加が必要という日本の主な理由は「市民が気候問題を**自分たちの問題**として認識し、気候政策の決定に対して**当事者意識と責任感**を持ってもらいたい」という気持ち？

気候変動を深刻に捉えていないZ世代が11か国中もっとも高い

以下の文章を読んで、あなたに当てはまるかどうかお知らせください：
「私は気候変動が人びとや地球を脅かすことを心配している。」



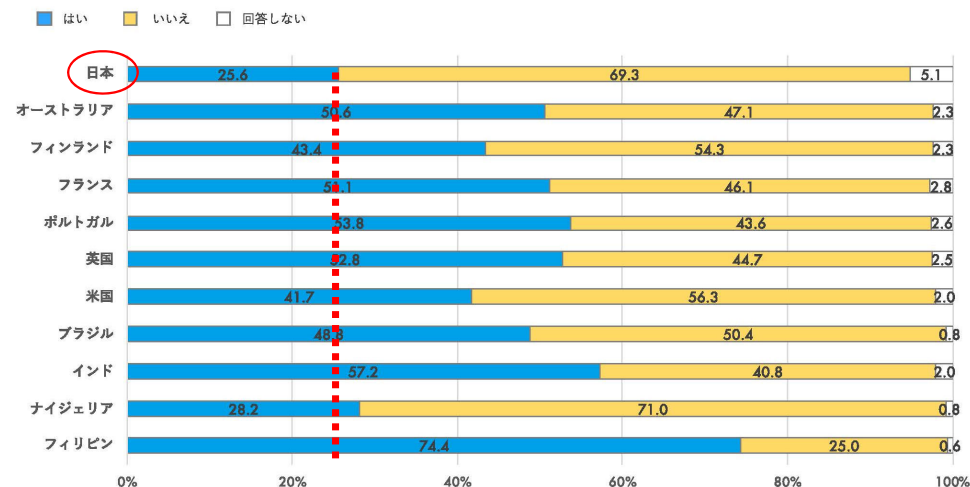
出所：電通総研コンパスvol.9 気候不安に関する意識調査（国際比較版）2023.03.22 <https://institute.dentsu.com/wp-content/uploads/2023/03/%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E6%AF%94%E8%BC%83%E7%89%88%E3%80%90%E9%9B%BB%E9%80%9A%E7%B7%8F%E7%A0%94%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9%E7%AC%AC%E5%9B%9E%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%80%91%E6%B0%97%E5%80%99%E4%B8%8D%E5%AF%80%E2%81%AB%E0%06%A2%E2%81%00%E2%82%8B%E6%8A%8F%E8%AD%08%E8%AA%BF%E6%0F%BB.pdf> （以下3ページ目）

気候変動に「不安」を感じているが、
「罪悪感」や「恥ずかしさ」は感じていない。
（自責の感情）

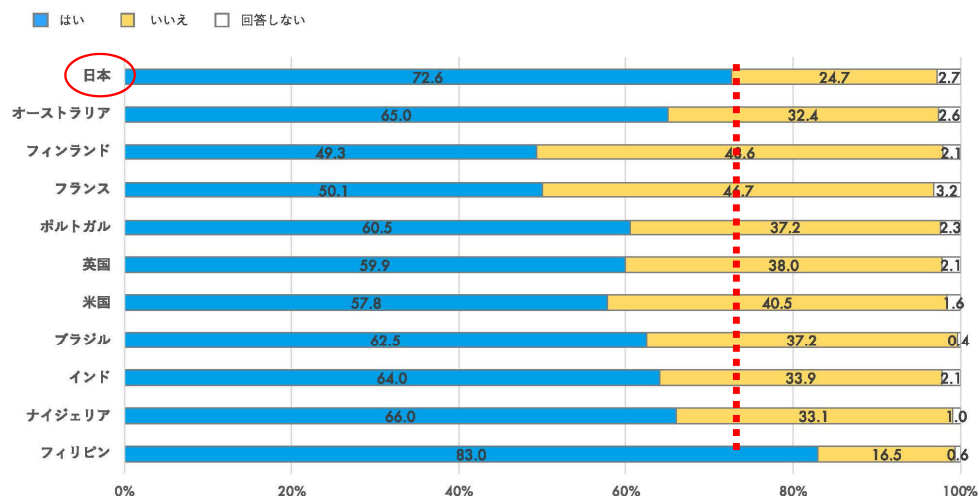
→ 被害者意識（自分ごと化されていない？）

気候変動によって、あなたは以下の感情を感じますか。

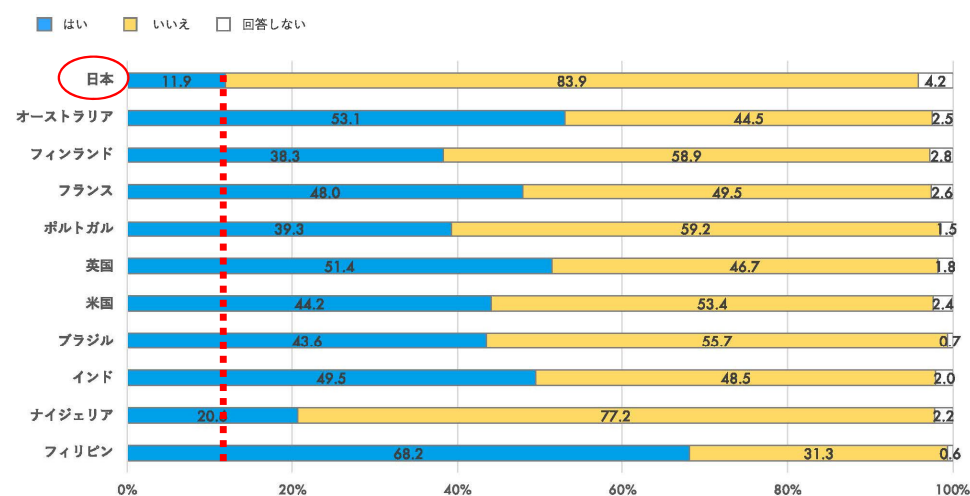
「罪悪感」



「不安」



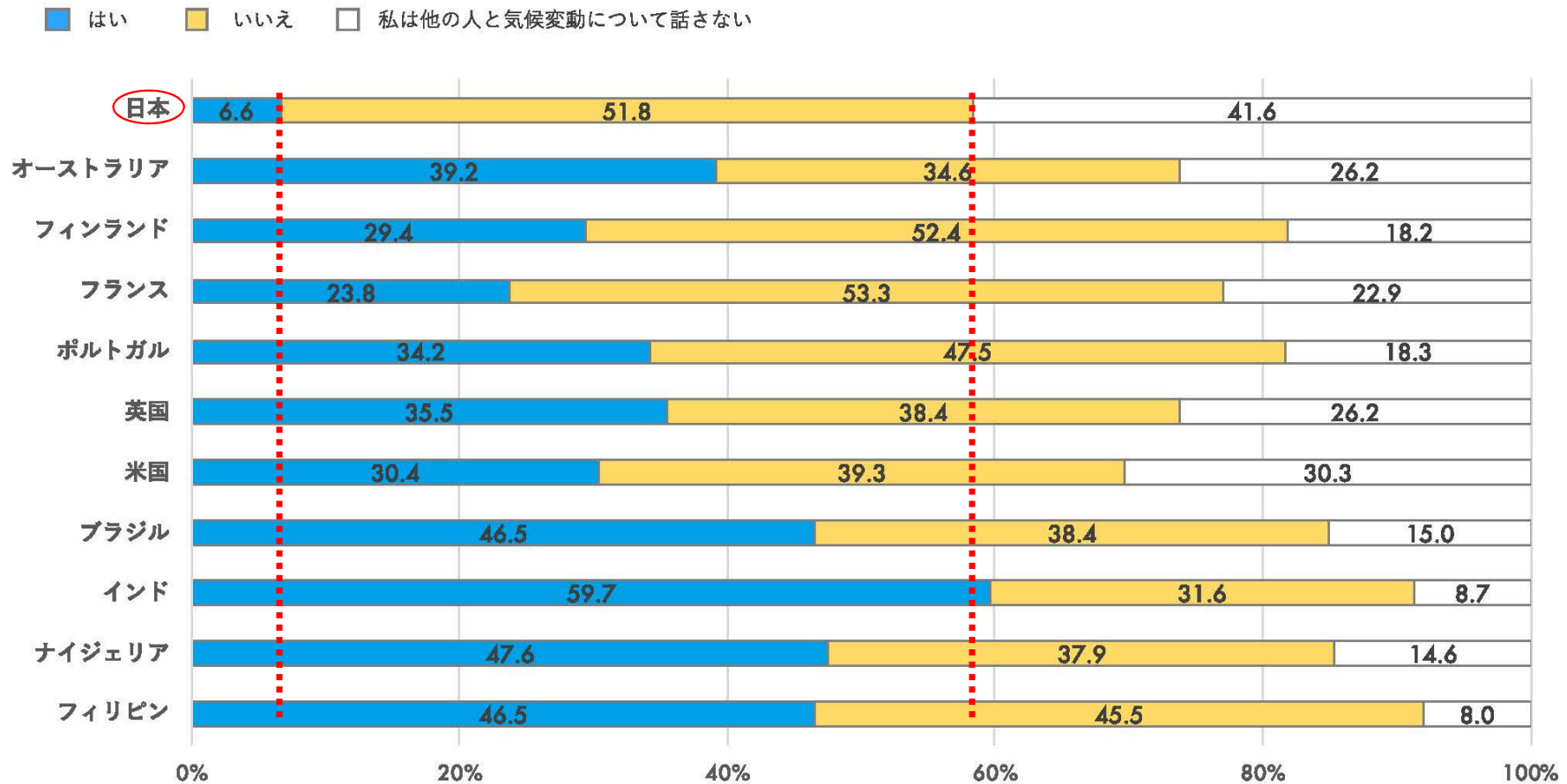
「恥ずかしさ」



世界は気候変動問題で断絶？ vs 気候変動は話題にならない日本

以下の文章を読んで、あなたに当てはまるかどうかお知らせください：

「私が気候変動について話そうとしたとき、相手に無視または拒絶されたことがある。」



事例1：自分ごと化会議（住民協議会：福岡県大刀洗町）

1. 参加者を「**くじ引き**」で選出（≠公募）

2. 参加者への問いかけ：

「**個人、地域、そして自治体**」
になにができるか？

3. **定期的**に開催（≠単発）

令和4年度 大刀洗町住民協議会（自分ごと化会議）会議資料 | 大刀洗町ホームページ (town.tachiarai.fukuoka.jp)



事例2:コミュニティ気候会議 (英国ウェールズ:グウィネス州)

1. 会議の目的: **コミュニティの気候
行動計画**
2. 参加者への問いかけ:「あなた/
コミュニティにできること」(**特技**)
3. 参加者の選定:「学校会議」を並
行し、**こどもの意見**で軌道修正

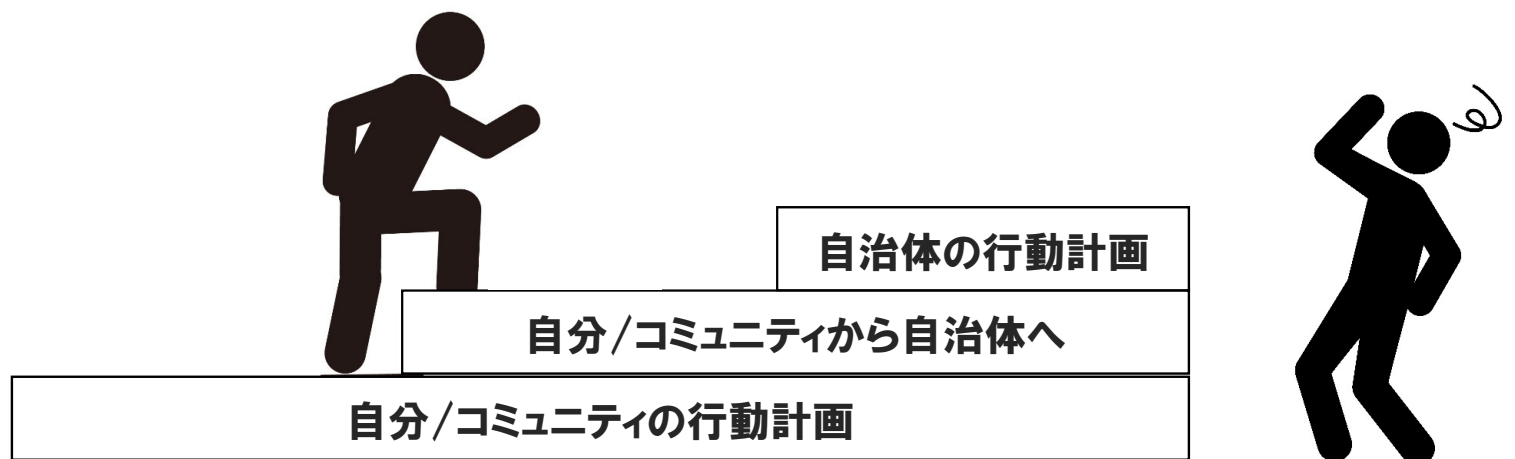


「自分ごと化会議」とコミュニティ会議の共通点 (市民会議との対比)

1. 無作為抽出（1段階のみ）
2. 手続の厳格性・運営の独立性は重要でない
3. 自分/コミュニティの行動計画（政策提言なし/重視しない）
4. 短期間（費用は比較的少額）
5. 参加者同士の議論が活発化しやすい

考 察

- 目的に応じて「熟議」の必要性は異なる
→ **そこで必要となる熟議に参加者の準備はできているか？**



- 「手法ありき」で**見切り発車しない**

ご清聴ありがとうございました。

浅川 賢司

asakawa@iges.or.jp

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関



世界に学ぶミニ・パブリックス: くじ引きと熟議による民主主義のつくりかた 単行本 (ソフトカバー) – 2023/4/29